



▲ブルーインパルスは宮城県の松島基地を拠点に、航空自衛隊の航空祭や国民的行事などで全国各地を飛び回っている

撃、感動は今でも忘れることができません。
それ以降、ブルーインパルスに憧れを抱くようになり、航空自衛隊への入隊を決めました。
航空自衛官として、これまではどのようなことを行ってきましたか？
那覇基地や百里基地を中心に戦闘機のパイロットを務めた後、横田基地の司令部や、市ヶ谷基地の航空幕僚監部などに配属され、勤務してきました。

第11飛行隊に配属後はどのようなことを行っていますか？
現在は、1番機の資格を取得するための訓練を行っています。全国各地で行われる航空祭では1番機の後席に搭乗して操縦技術を学び、ホームベースの松島基地では前席に搭乗し、実際に操縦しながら技術を磨いています。
ブルーインパルスのパイロットとしての任期は3年と決まっています。1年目は展示飛行のための訓練を、2年目は実際に展示飛行で演技をしつつ、3年目は展示飛行で演技をしつつ、後継者への技術指導などを行います。
遠渡さんがパイロットを務める1番機の役割、また飛行隊長としての役割について教えてください。
ブルーインパルスは6機の機体で編成されます。1番機は編隊長として全てのメンバーを統率し、編隊の先頭を飛行します。
1番機は編隊を組み際の基準となる存在であり、僚機が追従しやすいように正確かつスムーズな操縦が必要となります。
また、展示飛行を行う会場周辺や天候の変化などのさまざまな状況を総合的に判断しながら的確に

各課目を実施する責任を負っています。
飛行隊長は1番機の操縦はもとより、飛行隊の責任者として隊務運営に係る全ての責任を負います。
現在は、隊長付として各種業務の補佐などを行っています。
ブルーインパルスパイロットとしてのやりがいを教えてください。
全国各地で応援してくださるファンの方々と触れ合い、特に小さい子どもたちの輝くまなざしや笑顔を見るたびにブルーインパルスのパイロットとしての最高のやりがいを感じます。
昨年6月には三川中学校で講話を行いました。改めて、三川町の未来を担う子どもたちに向けたメッセージをお願いします。
私は小学生のころからパイロットになるという夢を持ち、大人になってもその夢を忘れたり諦めたりすることはありませんでした。なるうと思わなければ何にもなりませんし、何かをしようと思わなければ何もできません。「何かになりたい」「何かを成し遂げたい」という夢や目標を持つことが大切です。

道半ばで挫折することもあるかもしれませんが、努力した過程は後々の長い人生で必ず生きてくると思います。その気持ちを大きくなつても持ち続け、いろいろなことにチャレンジしてください。
最後に町民の皆さまに向けてメッセージをお願いします。
ブルーインパルスが所在する宮城県東松島市は、日々生活しているとなんとなく風光明媚な三川町と同じような匂いを感じることがあります。
毎年夏に行われる松島基地の航空祭に、ぜひ三川町の皆さまにも足を運んでいただき、我々の演技を生でご覧いただければ幸いです。



▲ファンと触れ合う遠渡さん



いざ、夢の舞台へ

ブルーインパルスパイロット
航空自衛隊 第4航空団 第11飛行隊 飛行隊長 長付
2等空佐 遠渡 えんと 祐樹 ゆうき さん

今、夢の舞台へ立つようとしている本町出身者がいます。
航空自衛官の遠渡祐樹さん（三本木出身）は、昨年4月、航空自衛隊の花形「ブルーインパルス」のパイロットとして配属されました。
ブルーインパルスは、航空自衛隊の広報活動を目的に、本拠地である宮城県の松島基地を拠点に、航空祭や国民的行事などで華麗なアクロバット飛行（展示飛行）を披露する精鋭部隊です。
航空自衛官として、ブルーインパルスのパイロットになることが夢だったという遠渡さんにインタビューで迫ります。
パイロットを目指したきっかけを教えてください。
小学生の時に庄内空港が開港しました。毎日のように町内の上空を飛ぶ飛行機を見て、次第に民間機のパイロットに憧れるようになりました。
それからなぜ、航空自衛隊へ入隊を決めたのですか？
大学生の時、三沢基地の航空祭で初めてブルーインパルスの演技を見ました。その時に味わった衝